

【第8号様式】おきなわSDGs認証制度会員レポート（認証を受けた日から1年経過時）

1. 団体情報

| | |
|--------|-------------------|
| 企業・団体名 | 日本トランスオーシャン航空株式会社 |
|--------|-------------------|

2. 申請内容

(1) 2030年のあるべき姿（ビジョン） ※記載必須

| 2030年のあるべき姿（ビジョン） | |
|---|--|
| *SDGsの目標である2030年までに、「(2) 今後2年間で特に注力する活動・取組」の実施によって、貴社が目指す未来を記載ください。 (貴社が目指したい社会、目標の達成に向けて貴社が考える課題、それに対して貴社ができる取組の方向性など) | 2030年のあるべき姿の実現へ向け取り組む目標 *SDGsの17のゴールから選択し、アイコンを入れてください。 |
| JALグループでは、サステナブルな人流・商流・物流を創出し、「移動」と「つながり」のチカラで社会課題を解決することを目指し、ESG戦略を経営戦略の軸においた中期経営計画を策定しています。弊社としても、持続可能な成長を遂げるためにESGに配慮した事業活動に取り組むことを掲げ、以下に取り組むこととしています。 | |
| (2) E（環境）CO2削減、脱プラ等、S（社会・人）人権の尊重、健康と安全、地域社会への貢献等、G（ガバナンス）公正・透明な経営、積極的な情報開示等 | |

(2) 今後2年間で特に注力する活動・取組 ※最低3個（社会・環境・経済）は記載必須

| No. | 今後特に注力する活動・取組 | | | | おきなわSDGsアクションプランとの関係性 | | 関連するステークホルダー | | 補足事項・留意点等 | 貴団体に於けるKPI（進捗管理指標） | | | KPI達成率 | 活動・取組結果備考 |
|--|--|-------------------------------|-----------|-----------|---|---|--|-----------------|----------------------|--------------------|---|------------------|--------|--|
| | 概要 | 分類 *任意の箇所は、フルダウン分類を選択ください。 | 優先課題 ④ | 優先課題 ⑦ | SDGs推進の目標 | 関連するSDGsターゲット | *申請団体以外に連携・協力するステークホルダーがいる場合に記入する。 | *補足事項等があれば記入する。 | | 管理する指標 | 当財（当財後1年）値 (xxxx年) | 目標値 (xxxx年) | | |
| 1 | 航空運送事業を通じた他社との事業連携によるサステナブルな観光推進 | 経済 | 必須 | 優先課題④ | 魅力的な観光産業の展開と生物多様性の両立により、世界に誇る持続可能な観光地（サステナブル・ツーリズム等）の形成を実現する。 | 13.b 14.1 14.2 15.1 15.2 15.5 | JALグループ各社 旅行会社 ツアーガイド、アクティビティ提供事業者 一気乗継事業者等 | | サステナブルな観光コンテンツや商品の開発 | 1件 (2023年度) | 持続可能な観光ツアーの開発を2025年までに2件へ増加(+1件) (2025年度) | 2件 (2025年1月) | 100% | |
| 2 | 地域課題の解決による社会への貢献活動（世界自然遺産推進共同企業体の活動、サンゴ再生支援活動の更なる推進） | 社会 | 必須 | 優先課題⑦ | 美しく豊かな自然が保全され、生物多様性の維持を実現する。 | 4.6 11.4 14.2 15.1 15.2 15.5 15.8 | 世界自然遺産推進共同企業体 サンゴ再生支援協議会 行政機関、大学、OIST等 | | 県内外企業と連携した取り組み実施 | 2件 (2023年度) | 世界自然遺産共同企業体またはサンゴ再生支援協議会における新たな取り組みを追加(+1件) (2025年度) | 4件 (2025年1月) | 200% | |
| 3 | CO2排出削減に向けた取り組み | 環境 | 必須 | 優先課題⑥ | 2050年度カーボンニュートラルの実現に向け、本県の地域特性に合ったクリーンエネルギーの導入拡大や省エネルギー対策の推進、二酸化炭素吸収源対策等が進み、災害に強い島しょ型の脱炭素社会に向けた基盤形成を実現する。 | 7.1 7.2 7.3 9.1 9.2 9.4 | JALグループ各社 カーボンクレジット発行企業 沖縄電力 SAF製造企業等 | | CO2排出量 | 約30万トン (2019年度) | CO2削減に努め、FY19排出量以下を目標していく（約30万トン未満） (2025年度) | 計上中 (2025年1月) | - | 各種ステークホルダーと連携し、排出量の削減に向けて取り組み中。現状値については2025年4月に計測結果が出る見込み。 |
| 上記の取組に加えて、今後特に注力する取組があれば、記載ください。（分類を「社会・環境・経済・ガバナンス・地域課題への貢献・国際課題への貢献」から自由に選択ください） | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | 任意 | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | 任意 | | | | | | | | | | | |

(3) 各活動・取組に関する詳細 ※記載必須

| 各活動・取組に関する詳細 | |
|---|---|
| *各取組内容を詳細に記載ください。なお、取組については現時点の達成度に限らず、将来的な展望や今後目指す展開についても必ず記入してください。 | |
| 取組1 | 取組の詳細 環境に配慮した魅力的な観光コンテンツを開発し、沖縄の豊かな自然を次世代へ残しつつ、関係人口を増やしながら持続可能な観光の形成に貢献する。 |
| 取組1 | 取組において、 現時点で実施/決定していること やんばるの森ネイチャーガイドツアーの実施 https://www.japawalk.com/campaign/yambaru_kugani.html |
| 取組1 | 取組において、 今後予定していること これまで補助金等を活用して実施してきたモニターツアー（エンカルツアー、サイクルツアーなど）の結果を参考に新たなコンテンツ開発。 |
| 取組1 | KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法 新たなコンテンツ開発に向けて社内検討を進める。KGIから落とし込んだ数値として、目標値を検討した。 サステナブルの定義としては、環境保全（CO2削減）につながるものを重視している。加えて、持続可能な観光も重要な柱として考えている。 |
| 取組1 | 取組を推進する体制 JALグループが持つリソースを活用しながら、これまで実施してきたモニターツアー（エンカルツアー、サイクルツアーなど）の連携により、体制を構築する。 沖縄県内の旅行会社、ツアーガイド、自治体などと連携して、観光協会などの連携も検討している。 |
| 取組2 | 取組の詳細 これまでに実施してきた世界自然遺産推進共同企業体の活動やサンゴ再生支援協議会の活動の発展。 |
| 取組2 | 取組において、 現時点で実施/決定していること 世界自然遺産推進共同企業体：各地でのビーチクリーン活動、世界自然遺産沖縄基金の設立、普及啓発活動、環境保全・保護活動など サンゴ再生支援協議会：石垣、久米島でのサンゴ有性生殖の実施 |
| 取組2 | 取組において、 今後予定していること 世界自然遺産推進共同企業体として、やんばる3村、奄美の企業体との意見交換を実施し、現状の課題をブラッシュアップし、さらなる環境保全・保護等の取り組みにつなげる。 サンゴ再生支援の継続的な実施 |
| 取組2 | KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法 新たな取り組みに向けて社内、関係機関、各企業・団体と検討を進める。KGIから落とし込んだ数値として、目標値を検討した。 現状の2件については、「世界自然遺産推進共同企業体」と「サンゴ再生支援協議会」である。今後は、現在の活動を分岐させて広げていく。 「世界自然遺産推進共同企業体」と「サンゴ再生支援協議会」の中では複数の取り組みを行っているが、新たな取り組みを弊社主導で展開する。 |
| 取組2 | 取組を推進する体制 企業体、協議会のリソースの有効活用により、各種部会などの設置を検討していく。「世界自然遺産推進共同企業体」と「サンゴ再生支援協議会」においては、企業体/協議会での意思決定をしているが、JTAが代表企業・幹事企業としてそれぞれを取り纏めている。 |
| 取組3 | 取組の詳細 航空機の運航により排出されるCO2の削減に向けた取り組み、2050年までにCO2排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルを実現する。 |
| 取組3 | 取組において、 現時点で実施/決定していること 機材更新による燃費改善、運航方式の工夫によるCO2削減。 |
| 取組3 | 取組において、 今後予定していること カーボンオフセットの導入やSAFの活用検討のほか、燃費効率の良い機材への更新、太陽光パネルの設置などを検討中。 |
| 取組3 | KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法 CO2の削減には確実に取り組むため短・中・長期での取り組みを検討中。KGIから落とし込んだ数値として、目標値を検討した。CO2排出量は弊社の航空燃料使用量から算出しており、燃料消費→CO2排出換算の式は以下の公費資料を用いている。（ https://www.env.go.jp/policy/local_keikaku/data/guideline.pdf#page=21 、 https://www.env.go.jp/council/16pol-ear/y164-04/mat04.pdf ） |
| 取組3 | 取組を推進する体制 JALグループ各社との連携に加え、クレジット発行に精通する企業や団体、SAFを製造するメーカー等と連携し、取り組みに応じた体制を構築する。 |
| 取組4 | 取組の詳細 |
| 取組4 | 取組において、 現時点で実施/決定していること |
| 取組4 | 取組において、 今後予定していること |
| 取組4 | KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法 |
| 取組4 | 取組を推進する体制 |
| 取組5 | 取組の詳細 |
| 取組5 | 取組において、 現時点で実施/決定していること |
| 取組5 | 取組において、 今後予定していること |
| 取組5 | KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法 |
| 取組5 | 取組を推進する体制 |

(4) 活動・取組結果

| 活動・取組結果 | |
|--|--|
| *活動・取組結果を詳細に記載ください。なお、(2)のKPI達成度が低い活動・取組結果については、今後の改善策をできるだけ記入してください。 *「(3)各活動・取組に関する詳細」に記載の内容に対応する形で、活動・取組結果を記入してください。 | |
| 取組1 | 既実施の「やんばるの森ネイチャーガイドツアー」に加えて、今年度「サンゴ再生環境ツアー」を開発 次年度も環境保護と地元のニーズを満たすツアー造成に取り組む。 |
| 取組2 | 既存の取り組みは「世界自然遺産推進共同企業体」及び「有性生殖サンゴ再生支援協議会」の発足。 今回新規の取組は以下の2件。 ・世界自然遺産推進共同企業体における弊社主導の取り組みとして、初の大規模なシンポジウムを開催（2/16予定） 「シンポジウム2025～かけがえのない価値を次世代へ～」 ・同じく弊社主導の取り組みとして、企業体社員を中心に外乗種繁殖ツアーを開催（1/18）し、自然環境の保護について知識を深めることに取り組んだ。 （※参考）有性生殖サンゴ再生支援協議会では、他県との交流を積極的に実施 高校生の課題解決型授業への登壇や、SDGs研修ツアーにおいてサンゴ再生に関する取り組みを紹介した。 |
| 取組3 | ・カーボンオフセットやSAFに関してはステークホルダーを中心に情報収集を行っており、特に県内由来のカーボンやSAFについて検討したい。 ・太陽光パネルについては約要因により設置が難航。 ・運航の工夫によるCO2削減は継続して取り組んでおり、取り組みが定着している。ただし天候などに左右されることも多く数値目標設定は行っていない。 （※参考）航空機以外の取り組みにおいて、那覇空港と名古屋港にて地上作業車におけるEV化と廃油を活用したバイオディーゼルの導入済み |
| 取組4 | |
| 取組5 | |